



THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

REGION ワイズメンズクラブ国際協会西日本区
JAPAN WEST

とやまワイズメンズクラブ 2022年6月号ブリン

主 題 2021-2022 年度：国際・アジア太平洋地域区・部

クラブ会長主題「リボーンとやま、あらたな第一歩」 会長 清水 淳

- ・ 国際会長主題 “Y's Men with the World” (世界とともにワイズメン) 国際会長 Kim Sang-che (韓国)
スローガン “Heal the World with Love & Dignity”(愛と尊厳で世界を癒やそう)
- ・ アジア地域会長主題 “Make a difference beyond the 100th (100 年を越えて変革しよう)
スローガン “Be healthy!” (健康第一!) アジア地域会長 大野 勉 (神戸ポート)
- ・ 西日本区理事主題 “Challenges for the future” (未来への挑戦)
スローガン 「羽ばたこう! 2022 年ワイズ 100 周年に向かって!」 西日本区理事 新山兼司 (京都トップス)
- ・ 中部部長主題 「楽しくやろう ワイズの活動 地域とYMCAと共に」 部長 渡辺真悟 (名古屋)

日 時：2022 年 6 月 13 日 (月) 18:00~20:00

会場：YMCA 堤町センター

例会プログラム

18 時 00 分 例会開始 司会：島田 茂

- 開会式 1) 開会点鐘 2) ワイズソング 3) 聖書朗読 4) 祈祷
5) 会長挨拶

18 時 15 分 「今期を振り返り、次期への抱負と思い」 ワイズ活動報告と今後の予定

- 19 時 15 分 1) 次回の予定：7 月 11 日 (月) 18 時 堤町センター
2) 会長引き継ぎ式

報告 3) YMCA 報告 4) ハッピーバースデー 5) ニコニコ BOX

20 時 閉会点鐘・閉会

【5 月第 1 例会出席報告】卓話：「今、子どもたちは？」 スピーカー：布村武信氏

日 時：2021 年 5 月 9 日 (月) 18:00~20:00 富山 YMCA 堤町センター

出 席：清水淳会長、青島明生、池田通則、川渕映子、小泉宗政、菅原美穂子、中島完一、橋本順子
中川喬之、竹中成行、島田 茂 以上 11 名 (17 名中出席率 64.7%) (敬称略)

ゲスト：城 信義、村上 隆 以上 2 名

欠 席：青山 仁、内山政子、城石芳人、舟崎優満、松浦正樹、水野 績 以 6 名

* YMCA 報告 ① 4 月 30 日第 13 代上村香野子総主事就任式が日本基督教団二番町教会で行われ 50 名参加。

② 一年の中で最も落ち着いてスタートできた。

③ 今年度は、語学は順調、体操教室は例年通り、野外活動は参加者が多い。
フリースクールが厳しい。学校にコロナの影響で休みやすくなっている。

聖書 ガラテヤの信徒への手紙 5 章 13～14 節、16 節 B～23 節

13 兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。14 律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。

16b 霊の導きに従って歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。17 肉の望むところは、霊に反し、霊の望むところは、肉に反するからです。肉と霊とが対立し合っているのです、あなたがたは、自分のしたいと思うことができないのです。18 しかし、霊に導かれているなら、あなたがたは、律法の下にはいません。

19 肉の業は明らかです。それは、姦淫、わいせつ、好色、20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、21 ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのものです。以前言っておいたように、ここでも前もって言いますが、このようなことを行う者は、神の国を受け継ぐことはできません。

22 これに対して、霊の結ぶ実（は）は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、22 柔和、節制です。これらを禁じる掟（おきて）はありません。23 キリスト・イエスのものとなった人たちは、肉を欲情（ほ）や欲望（ほ）もろとも十字架につけてしまったのです。

卓話：「今、子どもたちは？」

スピーカー：布村武信氏（とやまチャイルドライン愛ランド代表）

富山県でも生きづらさを感じ苦しんでいる若者は多い。とやまチャイルドライン愛ランドは、『若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会』にも加盟し、生きづらさの問題に取り組んでいる。子どもたちは、忙しい時間の中で生きている。性の問題。部活の問題。ネットトラブル。自分自身の問題など様々な問題を抱えている。



特に、自死の問題は深刻である。令和3年の自殺増加率は、富山県が全国ワースト1位になってしまった。20歳以下の若者の自死が増加している。自殺の動機では、男子1位学業不振、2位進路に関する悩み、3位親子関係の不和、女子1位病気の悩み、2位進路に関する悩み、3位親子関係の不和、4位学業不振という調査結果が出ている。自己肯定感の低さだけでなく、自死願望のある子どもたちにどのように向き合っていくのか。研修を受けたり、臨床心理士、精神保健福祉士などの資格を取り対応しているメンバーもある。

「自殺願望」を告白してくれた子どもたちに、「辛い思い、死にたい気持ちをよくぞ告白してくれたね」と以前は言えなかったが、今は言ってくれたことに感謝できるようになった。

相談の際に「指示、命令、説教はしない」ということを大切にしているが、自死の問題には、告白に関して感謝する前に当初は「死んじゃダメ」と言ってしまった。子どもの気持ちや考えを理解せず、つい「今どこにいるの」「親はどうしているの」など聞いてしまう。自死の問題には、聴く側の人の哲学や思想に左右される場合がある。「死にたい」という気持ちの裏返しには、「生きたい」という思いがある。チャイルドラインとしては、目の前にいる人を信じてもらえなくてはならない。

学校でも社会でも仲良く話しているようでも孤立感がある。いざ一人になった時に孤独を感じている子どもたちがいる。子どもたちが社会で生きやすい時をYMCAはもっと提供して欲しい。